字、乃可訓佐賀利布須倍、此所引釋名、宜移布須倍條、布須倍條所引莊子懸疣、宜移於此、又按、釋名贅肬兼舉、似二物不同、盧文弨曰、經書多以肬贅並舉、小曰肬、大曰贅、

〔增補下學集上二支體〕肬（イボ）疣二字義同

〔二中歷十三十列〕不用物　間仕疣

〔倭訓栞前編伊二〕いぼ〳〵　物に疣の如きもの、多く著たるをいふ、西土の書に、丁拐とも疣瘡とも見えたり、

〔類聚名物考病痾一〕いぼ

いぼといふ病は、そのかたち米粒の如く、飯粒の如くなればいふ、粒はつぶともつぶともいふ、揖保（ボ）といふ播磨國の郡名を、延喜式には小粒の字をよませたるにて考るべし、又いぼたといふ木有り、女楨の類ひなるを、此實いぼに付れば、いぼの落る故にいぼたといふ、たは落るなり、墮の字の字音歟如何、

〔病名彙解六〕肬（キウ）　俗ニ云イボナリ、準繩ニ云、肬ハ肝膽少陽ノ經ニ屬ス、風熱血燥、或ハ恐テ肝火ヲ動シ、或ハ汗ニ淫氣ヲ客トシテ致ストコロ、蓋シ肝熱水涸テ腎氣榮セズ、故ニ精亡テ筋攣スルナリ、宜ク地黃丸ヲ以テ腎水ヲ滋シ、以テ肝血ヲ生ズルヲ以テ善トス、モシ蛛絲ヲ用テ纏ヒ、蟾蜍ニ蝕、艾灸ヲ著、多クハ誤ヲ致ス、大抵此症血燥結核ト相同ジ、經脈篇ニ、手ノ太陽ノ別虛スルトキハ肬ヲ生ズ、小ナル者ハ指痂疥ノ如シ、註ニ贅也瘤也、大ナルトキハ肬トス、小ナルトキハ指間痂疥ノ類トス、是ヲ以テ見トキハ、大肬ヲコブト云、小肬ヲイボト云ナルベシ、默同ジ、疣ニ作ルハ俗字ナリ、

〔和漢三才圖會十人倫之用〕肬（いぼ音由）　疣同　和名以比保、〇中略

釋名云、肬丘也、出皮上、聚高如地之有丘也、